

4年目にしようやく果たせた沢旅

八甲田・奥入瀬川「黄瀬沢」

高橋

【日時】 2007年10月6日～8日

【メンバー】 L高橋・山口・植島・高柳

「黄瀬沢」を計画した始まりは4年前。確か台風の襲来で、翌年は会友の不幸な事故で、昨年は不動のメンバー山口さんの不参加で夫々中止した経緯があった。そして今年は私にとっては最後のチャンスに思えた。南八甲田は「酸ヶ湯温泉側から「逆川」～「駒ヶ峯」の北面の広大な湿原」、南側からスラブの溪「滝ノ股沢～田堰沢」を遡行しているが、今回はこの「滝ノ股沢」の西に位置し、日本100名瀑「松見の滝」を有する「黄瀬沢」

以前此処を遡行している浅井君から資料を頂戴し、その記載から「入渓までのアプローチ」の短縮を図る事にした。幸いHPに「松見の滝」へのアプローチに利用されている林道（葛沼林道 葛沼温泉の先から約8キロ、25分）まで車で入ることにした。ここから徒歩で作業道を40分、更にく黄瀬バス停から続く林道を45分。これならバス停から徒歩3時間の約半分のアルバイトだ。東北道を3人交代でひた走り、八戸分岐手前でAM2:30になり、仮眠を取る。翌、薄晴れの朝 葛沼温泉を確認してから「葛沼林道」に。道は3回ほど分岐を見るが、よく整備された道で普通車でも、全く問題ない。「キノコ採り」の車も結構入っている。林道終点手前の、最終日下山予定の「檜ヶ瀬沢」二俣に近い箇所にデポ。準備を整え、ゲートを超える。尾根に付けられた作業道は結構しつこい登りで消耗するが、秋だというのに青々した葉を茂らせたブナの森が気持ち良い。45分ほどで林道に。「松見の滝」へ行くご夫婦と同行するが、此処まで2時間半かかった由。ブナ林から植林帯に変わり、暫く行った左側に「松見の滝」へを示す小さな板切れを確認して、笹の切り開きを下り、途中から藪を漕いで、滝上に繋がる小さなルンゼを下り、「黄瀬沢」に出合う事が出来た。入渓は既に12時になっていた。計画ではもう少し早く着けると考えていたが、意外とアプローチに時間がかかってしまった。為に今日は「長根沢」よりも先に進みたいとの目論見は早くも流れ、「長根沢」出合付近を今日の天場に決め出発する。

この「黄瀬沢」はブナ森に囲まれ、両岸が明るいスラブ壁の上に遅い秋色を配した、岩盤が素晴らしく発達した溪で、下手な文章ではとても言い表せない美溪だ。これは写真で見て頂こう。

「松見の滝」上から「長根沢」までの間は、ヤヤ河原状の溪相ながら、バランスよく大きな釜を有した幅広のナメ滝が配されており、その通過にはバランスの良いへつりが求められ「長根沢」付近には2～3箇所の天場適地がある。天場からは両岸が切り立ったスラブ壁が続く正に素晴らしい溪相



「黄瀬沢」はブナ・ナラなどの広葉樹の森に育まれた溪。日本100名瀑「松見の滝」は100m近い落差のある大滝で我々の遡行対象はこの大滝の上からなので、魚影は見られず、釣師も入らない分、汚れが少ないのだろうか？



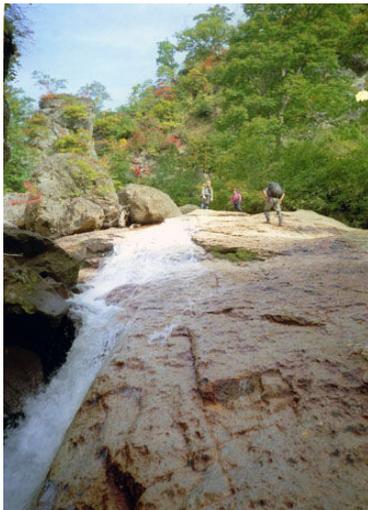
基本的に河原状は少なく、岩盤が発達した明るいゴルジュの中に、ナメや小滝が連続する。



大半の滝はこうした幅広のナメ滝で、一歩に微妙さはあるものの左右のどちらかから、登れるのが嬉しい・・・。



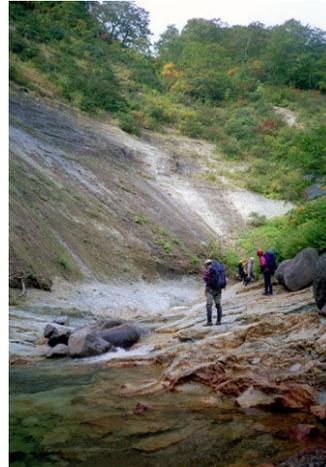
「長根沢」から1時間も行くといかにも東北の溪を感じさせる明るいスラブの壁がつづく。



両岸にスラブの壁がようやく消えようとして来たP800位のナメ床の連続する溪相は、何者にも例えようもない素敵な形状だ・・・。



よく磨かれた岩肌のヘツリは、重荷には堪える場面も多い・・・。写真は最初のヘツリだが、2番目の青々した大釜では、腕のパンプを必死で堪え、何とかかんとかヘツリ終えた。





両岸のスラブが姿を消すと今度は、甌穴を持った
ナメ床がブルーの水をたたえて、我々を歓迎してくれる

P1050から「黄瀬沼」に源を持つ支沢を30分ほど辿ると、訪れる人も稀と思える「黄瀬沼」が静かな佇まいの中にあつた。



遅い秋の中にも、ようやくくもみじが沢辺を彩る景色があつた



「黄瀬沼」から笹の切開きを一時間で「駒ヶ峯」からの登山道に。

当初の計画では「黄瀬沼」から「乗鞍岳」を越え、「赤倉岳」への中腹から「櫛ヶ瀬沢」を下る予定だったが、私の膝が心配で、登山道を「猿倉温泉」に下り、タクシーで車を回収する事にした。この道は昔の軍用道路で、足に優しい道だ。数年前に故長汐君とも辿った懐かしい思い出を語りながら下る。

天気予報を聞いていた山口さんから「東北は明日未明から昼頃まで大雨」と。間髪を入れず高柳さんから「これから下山して、車も回収して置きましょう」の提案。全員に異議なく、直ちに素早く準備を整えて、「猿倉温泉」に下った。

1時間強で到着し、屋根着きの休憩所に TENT を張る。温泉宿のご主人にお願いして、衛星電シーを呼んでもらい、山口・高柳さんが回収に向かう。気のよい運転手さんは勝手知ったる道のようにだった。快く？協力してくれたと。こうして、無事車も手に戻り、翌日は「谷地温泉」(白乳湯・掛け流し・400円)で入浴して帰京し

【行程・コースタイム】

10月6日 葛沼林道(10:00)～松見ノ滝入口(11:30)～黄瀬沢本流(11:55)
～長根沢出合(14:50)

7日 BP(6:50)～黄瀬沼分岐(12:10)～黄瀬沼(12:55)～地獄峠(14:30)
～矢櫃沢(16:20-19:30)～猿倉温泉(20:50)

八甲田／奥入瀬川／黄瀬川

メンバー 高橋敏夫、山口文嗣、高柳 一男、植島美恵子

日時 2007年10月6日～8日

